

## 嬉野温泉本通り道路空間デザイン検討会 第1回検討会 議事録

平成 29 年 11 月 22 日(水)14:00～

(挨拶、資料説明省略)



### <嬉野市商工会>

嬉野温泉の顔は商店街。まずは安心して安全な整備を行ってほしい。車が離合するときは昼も夜も危ないと感じている。車道を狭くして歩道を広くとってもらいたい。観光協会と一緒に、新幹線の駅からバスセンターに向かった一方通行の社会実験をと言いつけていたが、反対意見もあるということでなかなか進まなかった。いろいろな問題はあと思うが、このように皆さんが集まった中でぜひ協議をしていただきたい。それから、商工会では街路灯の管理も行っているが、新幹線の駅ができ、全体的な整備をする中で予算を確保してもらい、商店街も含めた街路灯の管理を市でやっていただきたいと思っている。

### <温泉区>

個人的な意見になるが、今説明されたハード策以外に、集客をするためのソフト策は何かあるのかお聞きしたい。現在の集客で街並みを歩く観光客の状況は今ぐらいの感じ。これぐらいの観光客数であれば、そこまでお金をかけてやることなのか？とも感じている。市として、集客を倍の人数にしたいからこういうことをやりたいといった動機があれば大丈夫だろうと思うが、今の集客のままを変えようとするのはどうかと思う。当然、街並みがきれいになることはいいことなので、色々変えていくことは大事だとも思うが。

### <事務局(建設・新幹線課)>

観光客の増加に向けては、うれしの温泉観光課でインバウンド等の取り組みを進めており、年々インバウンドの観光客は増加している状況にある。今後も色々な予算を使いながら海外との提携をいらんで海外からのお客様を増やすというのがひとつ、もうひとつは平成 34 年に新幹線開業で関西方面からの観光客を呼び込むということで、少なくとも今の観光客よりは増やしていこうと考えている。

### <事務局(うれしの温泉観光課)>

まち・ひと・しごと創生という中では、5 年後に約 20 万人増加という数値目標があり、増やす努力をやっているところ。インバウンドについても海外に向けた観光 PR を行っている。また、新たな取り組みということで、国際交流も進めている。今回の空間デザインはハード対策ということになるが、歩道がひろがると、温泉公園や親和銀行の駐車場で開かれているマルシェが歩道空間でできるということにもなり、そういったことでもまた多くの人に集まっていただけのではないかと考えている。

#### <温泉区>

シーボルトの湯の調査結果では県外客が多かった。県外というのは波佐見、大村、諫早から来ていると思っている。個人的な見解ではあるが、武雄温泉に泊まって、嬉野 IC から来るお客さんが多い。温泉区の立場から言うと、縦の線も少し考えていただきたい。

#### <温泉タクシー(株)>

車の仕事をしている関係上、道路は広ければ広いほどありがたい。商店街には商店や病院等もあって、生活道路としての一面もある。商店に納品する車や旅館に入る大きなバスなども通る。タクシーとしても「ここで降ろしてください」「あそこで降ろしてください」と言われる際の乗降は道路が広い方がいいと考えている。観光客を案内するには歩道が広い方がいいということであれば、乗降とか納品車のスペース、あるいはそこを通らずに迂回できる道路整備も若干必要ではないかと思う。

#### <(株)佐賀タクシー>

交通事業者の一人として、車の運転という観点からは先ほどおっしゃったとおりであるが、嬉野市として、新幹線開業も含めて魅力的にしていきたいのと同時にくらしの部分も考えてのことと想像できる。さらに、次の世代のことを考えていったときに、高齢の方も増えていく中、マイカーに過度に頼ったやり方が機能しなくなってくることを考え合わせると、方向性としては間違っていないだろうと感じる。ただ、指摘があったように、実験をするにあたっては、生活面に対する配慮は必要だと思う。それから、そこに行く目的、住む人がそれを楽しむ、それで外からも集まるといったような、この先どうしていきましょうかという部分についての認識を少しずつ作っていきながら道路計画があるべきだと考える。そのあたりを加味していただければいい実験になるのではないかと思う。できる協力はしていきたいと考えている。

#### <鹿島警察署>

車道を狭くするということであるが、幅員はどれくらいを考えているのか。

#### <事務局(建設・新幹線課)>

今後検討が必要だとは思っているが、この絵の中では幅員3mと書いている。

#### <鹿島警察署>

ということは、離合はできないので一方通行ということになるのか。

#### <事務局(建設・新幹線課)>

そこも含めての検討になると思っている。

#### <鹿島警察署>

もし、一方通行になった場合、沿線にお住まいの方にも絶対に守っていただかなくてはいけない。右に行きたいけど迂回が必要で、ほんの何mかだけでも逆走になる。沿線の方にはそれだけ負担を強いることになるので、

合意形成が必要になると思う。それと同時に駐車場の整備も必ず必要になってくる。タクシープールやコインパーキングなどの整備も必要になると思う。

#### < 杵藤土木事務所 >

バリアフリーの観点から言うと、車いすは1m占有するので、離合を考えると2m必要となり、それを両側確保すると4m必要となって車道3mでもギリギリということになる。ただ、車道が3mだと離合ができないし、救急車が来た時には追い越しもできないということになって、単純に見ると厳しいのかなと思う。沿道の協力も必要。我々は道路を整備する方で、ハード整備はお金をかければ何とかできるが、実際にそこを使われる方の理解が得られないと、作ったけど誰も利用しないということになっては意味がないので、将来的にこの商店街がどういう風にしていきたいか、どういう観光客を相手にしていきたいか、そのためにはこの整備が必要だよ、ということがないと、先に整備をやって、後から周りの人たちがその整備に合わせていくというのは難しくなると思う。ハードありきにならないようにしていく必要があると思う。

#### < 嬉野小学校 >

子供たちは自分たちが住んでいる嬉野の街をどういう風にしていきたいかということを考える学習の中で、新幹線の駅ができることに際して、例えば、新幹線の駅から嬉野の街中までバスを通して、そのバスの中に足湯があったらいいといった子供らしい夢のある意見もあった。先ほど子供たちとその父兄へのアンケートという説明があったが、それについては協力させてもらう。それと、国際交流という話も出ていたが、弁論大会の中である子が、嬉野に来られた外国人の方から道を尋ねられた時に自分は答えられなかったからみんなでもっと英語に力を入れる街づくりをしたらいいんじゃないかと言っていた。嬉野の街の魅力が高まるようなことを子供たちも考えている。子供たちにとって安全な街づくりをお願いしたい。

#### < 嬉野温泉商店街協同組合 >

景観がよくなって、歩行者の安全性もよくなるのはいいことだと思う。ただ、商店街としては、お店兼住宅というところが結構あり、また先ほど言われたように病院もあるので、救急車の通行の妨げにならないかなど危惧するところは多々ある。商店主や地区住民の方との対話もあわせて進めていかないと、なかなかことが進まないのではないかと感じている。

#### < 嬉野温泉商店街協同組合 >

街に観光客が来て商店街に活気を持たせたいというはあるが、ハードを作った上で中身の部分が伴わないといけないと思う。一方通行をするということであれば、受け入れる側のお店が増えないことには、街歩きということにはならないと思う。一生活者としては、小さい子供がいるので、安全性の部分で歩道を広くすることとは子供たちの安全を図れるのかなと思うが、一方で、一方通行にすることで、車が通りすぎてまた戻るときに、商店街の中の細道を迂回する車が通る場合に、逆に危なくなるのではないかと感じる。すれ違いもできないような細道もいくつかあるので、一方通行をすると、そういう道の利用者も増えると思うので、迂回経路もあわせて検討していただきたい。

#### < 嬉野温泉商店街協同組合 >

それぞれの商店が今の商売のあり方について、道路空間が変わることがどう影響してくるのかを細かく考える必要があると思う。それに合わせて商売のあり方が変わるということもあり得るのではないかと、お客様の層が変

わり、それによって商売も変えるということ。ただ、現状、どこの商店も頑張っている中で大きな変化があるのは辛いかないところも実感している。それから、住んでいる住民として、利便性がどうなるのかは気になる。東西に長い道路なので、先ほどから出ているように迂回がしにくいといった問題、それと、曜日によっても時間帯によっても交通量が違うので、このへんもきちんと調べないといけないのではないかと思っており、そういういくつかの課題を、これから開通に向けて意見の交換と調査も含めて細かく検討していかないといけないのかなと感じている。

#### <嬉野温泉旅館組合>

本日説明された景観の取り組みなどはいいい内容だと思うが、実際に住まれている商店の方々に関しては決してプラスにはなりにくい内容だといえる。最終的に何をとりて何を捨てるかということになると思うが、その判断を皆さんが合意できるように、実態調査のデータなどを使ってきちんと説明していただきたい。

#### <(一社)嬉野温泉観光協会>

本通り線の一方通行は、何十年か前に一度議題にあがった経緯がある。その時は、地元住民や商店街の方との協議が十二分にできずに合意に達しなくて中断したと思う。今回改めてこういう提案がなされて、言われたようにいろんな問題があるとは思いますが、十分協議しながらやっていくことが必要だろうと思う。私もお客を呼ぶ立場なので、魅力ある街づくりというのは大いにいいと思っている。ただ、どうしても現在の道路幅員の中で歩道を広くとって車道を3mにするということでは狭い感じがする。そういう中では、以前からの課題であった本通りの電柱の地中化もあわせて考えてもらえないか。蜘蛛の巣の電線を除去すれば、もっとすっきりした街並みができて魅力ある街づくりにつながっていくのではないかと考えている。

#### <(一社)嬉野温泉観光協会>

事実の確認として、今の本通りの整備について、歩道と説明されていたところは実は歩道ではなく車道なので、実際は本通りには歩道がない状態。観光客はさておき、まずは歩行者のための歩道を確保することは市が進めていかなければならない政策だと思う。それから、嬉野が衰退していく道を選ぶのか、交流していく道を選ぶのかを考える必要があると思う。観光なんてどうなってもいいということであれば、こういう整備は必要ない。お客が入らない旅館はどんどんつぶれていって、流行っているところも結局一軒だけでは商売していけない、そうやってつぶれていった温泉地はいくつもある。そうではなく、将来30年先、50年先、100年先も国際的な温泉観光地として生き延びていく道を選ぶのか、生き延びていくための選択をするのであれば、快適で安全な空間づくりは避けることができないと思う。去年嬉野での宿泊数は60万泊、日帰り客も含めると200万人で、これは最盛期の75万泊に近づいてきている。最低の時は40万泊まで下がったが、そこから皆さんずっと努力されて60万泊までこぎつけたところ。しかし、国内観光客は毎年微減している。それでも増えているのは海外観光客が来ているから。佐賀県の統計で去年の外国人の宿泊は30万泊、嬉野武雄地区でその50%、そのうちの70%が嬉野に宿泊されているだろうと概算される。将来的にはグローバルなマーケットを意識した街づくりをしていかなければいけないと考えている。韓国・上海からは日帰りや週末泊のリピーターがすごく多い。特に韓国からは10回以上嬉野に来ているという方もいるくらいで、国内旅行の感覚になっている。なぜ来るのかというと、温泉がいい、食事もおいしい、そして街がきれいだからと言われる。ただ、まずICに迎えに行くと、消防署前の大通りを通ると、ごみも落ちていないし街路樹もあるので、韓国人観光客が「きれい」と言うが、本通りに入るとそれがない。生活空間でもあるという大きな問題はありますが、それと共存できるように、そして、日本語が読めない外国人でも安心して散策できる街並み空間を目指していただきたいと思う。

#### < 嬉野商工会 >

誤解のないように言っておきたいが、私の住居も本通りを通らないといけないところにあるし、旅館も本通りにある。この話は、商店街や地区住民と観光・旅館との対立の話ではなくて、本通りにある旅館も一方通行になると困ることはある。それは全く同じ。いろんな意見を聞いてなるほどと思うところはあったが、それでも、将来の嬉野温泉の顔づくりのための社会実験をやりたいという話。インバウンドが今非常に増えているのであれば、今日の資料では欧風文化的なものが多かったけど、嬉野らしい和風文化の整備の方がいいかなと思った。

#### <(一社)嬉野温泉観光協会>

風鈴夜市の時は、みんな喜んで通りに出てきている。あれは特別なイベントで、子供たちだけで行かせても安全で、車の侵入もさせないようにになっている。それでも不便だとは思わないし、風鈴夜市があっていると観光客も喜ぶ。年に2回のイベントだけど、安全な道路空間がいに人を呼び込むかということだと思う。それから、国道がなかった頃バスは本通りを走っていた。国道ができてからはバスにとっても歩行者にとっても安全だからということでバスは国道の方に移動した。本通りに止まった方が便利ではあるけど、時代とともに少しずつ変わってきた。歩行者のために歩道を広げれば車道が狭くなるけれども、本通りは歩行者の時代になっていると私は思う。社会実験を繰り返して、ぜひ成果を出していただきたいと思っている。

#### < 嬉野温泉商店街協同組合 >

社会実験をしながら実際に見て感じることは大事なと思う。それから、電線があることをどう見るかということもあって、生活感があることがいいということもある。きれいであることはどういうことか、そういった議論も含めて進めていかないと、設計だけの話になってしまう。ヨーロッパのように街中に生活があって、訪れた人がその生活に触れて、ゆっくり散策をする、そして車もあまりいない、というのはいいなと思う。嬉野は盆地で、通りのどこから見ても目の前に緑が見える。その緑のある街で、かつ温泉地という素晴らしいところで、そのイメージはある。ただ、ヨーロッパには文化があって、嬉野には嬉野の文化があるので、そういうのも全部含めて、これからワークショップや意見の交換をたくさんした方がいいと思う。そうすればおのずと見えてくるのではないかなと思う。